



右上下:工事が必要となった天井(上:企画、下:常設)

左上:建物と地面の境に隙間が!

左下:亀裂が入った前庭(右)とキャノピー(左)

れ、地盤の落下など被害をうけ、工事が必要となりました。

【休館】

以上のような当館の状況や、県内各地の震災による被害、東京電力福島第一原子力発電所事故等情勢を踏まえ、当面の間休館することになりました。「植田正治写真展」が途中休止となったほか、新年度より開催予定だった「ウッドワン美術館所蔵 近代日本の絵画名品展」と「郡山市・奈良市 姉妹都市締結40周年記念 入江泰吉写真展」が中止となりました。当初、再開の目途は立ちませんでした。夏休みの企画展「リサとガスパール&ペネロペ展」に合わせて再オープンを目指すことになりました。

【再オープンに向けて】

休館中も、職員は館内の復旧のほか、オープン後の展覧会の準備や学校への出張授業、市所管の破損した美術品の引き取り(美術品レスキュー)など様々な業務がありました。また地震翌日から交代で避難所の応援や炊き出しの手伝いなどに参加し、市民の皆様の被災と復興の様子を目の当たりにしながら、再オープンを目指しました。また、美術館にはたくさんのお見舞や励ましの電話・メール等をいただき、再オープンを望む声も市

に寄せられ、大変勇気づけられました。外部の完全復旧は長期間を要しますが、展示室内工事は無事終了し、ようやくお客様をお迎えできる形となりました。

【お客様のいない美術館】

休館中、大きな美術館の建物の中はシンとして、大変寂しいものでした。やはり、美術館は作品とお客様、双方が出会う場所として機能して初めて生きた施設になるのだと感じました。

【隠れた被害】

お客様の目に触れないところは、事務所の学芸員室がさまざまな事態になりました。普段から様々な資料や書類、書籍など、展覧会に役立ちそうなものをため込んで山積みになっているため、それらが崩れて床が見えないほど散乱しました。

【これからの美術館】

「リサとガスパール&ペネロペ展」に続き、「花の画家ルドゥーテ」「美花選」展「破天荒の浮世絵師 歌川国芳展」「駒井哲郎1900-1976」と展覧会のラインナップが続きます。また市民の財産である所蔵品コレクションも、3か月に1度を目安に展示替えをしていきます。また各種行事等も従来通り開催していく予定です。震災に加え原子力発電所の事故という多



床が見えなくなった地震直後の事務所。

美術館各所の放射線量測定値(2011年9月14日時点)

| | |
|----------------|------|
| お客様駐車場 | 0.50 |
| 前庭(彫刻《野兎と鐘》付近) | 0.36 |
| 建物入口 | 0.14 |
| ギャラリー | 0.13 |
| 1F企画展示室 | 0.10 |
| 2F常設展示室 | 0.10 |
| カフェ(8月9日) | 0.14 |

単位はマイクロシーベルト/時

大な被害を被った中ではありますが、少しでも心が潤される場所として、皆様にご利用いただければと願っております。